KYOTO KEIKAN FORUM

2021

京都市景観整備機構
NPO法人京都景観フォーラム
「年次報告書」

ANNUAL REPORT

CONTENTS

02 京都景観エリアマネジメント講座　03 エリマネネット
04-05 三条通のまちづくり / 近代建築 WEEK
06 地域サポート活動　07 受託事業　08 NPO 法人設立 10 年を迎えて

京都景観エリアマネジメント講座再開
－講座のカリキュラムをリニューアル－

文：森川 宏剛　*Morikawa Hiroyoshi*

感染防止に配慮して、対面で講義、ワークショップを実施

2020年度はコロナ対応のためにお休みしていた京都景観エリアマネジメント講座（エリマネ講座）ですが、2021年度は内容を大幅にリニューアルし再開しました。緊急事態宣言中には講義を中止あるいは延期などせざるを得ない場合もありましたが、リアルに集まることをできるだけ大切にして、何とか最後まで終えることができました。

■基礎講座：

今期から講師陣は、京都で活躍されている若い世代中心の布陣となりました。また以前にはなかったまち歩きやワークショップを取り入れました。まちのことを文献等で調べ、現地を歩き、まちの景観課題を探る作業にグループで取り組みました。受講生同士の交流機会が増え、いろんな考え方に触れることもでき、より学びが深まったとの感想もいただきました。

■実践講座：

以前にはなかった地域のまちづくりリーダーのお話や、先輩エリマネの活動のお話を聞き交流する機会を設けました。現場で頑張っておられる方々のリアルな経験や考えとその人柄に触れ、グループワークや修了レポートにも役立ったようです。ですが、グループワークでの体験を充実させることや、修了レポートのサポートなどには、まだまだ改善の余地がありそうです。

2022年度も引き続き、内容の充実を図りながら進めていきたいと考えています。

基礎講座：グループ作業で交流

基礎講座：まち歩きで新たな発見も

基礎講座：講師も新しい布陣に

実践講座：先輩エリマネの体験を聞く

実践講座：嵐山でのフィールドワーク

実践講座：修了生から個人レポートについて発表

エリマネ・ネットの活動

－エリマネによる研究・研鑽・交流を目的としたネットワーク－

文：内藤 郁子　*Naito Ikuko*

改修された町家で話を聞く

集まりにくい状況のなかでしたが、できるだけ顔を合わせてお互いの体温や人柄を感じながら繋がっていける活動となるよう、3つの機会を設けました。

◆第 1 回：「あなたのメッセージはちゃんと届いていますか？」4 期生である村井直也さん（専門分野：マーケティング）から、メッセージを届けるためのセオリー・表現戦略について、シニアにも読みやすい伝わる紙面の作り方などの実例を交えて教えて頂きました。

フィールドで理解を深める

◆第 2 回：7 期生の前田弘二さんより、五条大宮近辺で約 20 件の町家を宿に改修、活用しておられる「立志社の取り組」についてお話頂きました。その経緯やコンセプト、ご自身の京町家への熱い思い、地域との融和の仕方、さらに経営のノウハウなども教えて頂きました。お話の後に、数件の宿を見学させて頂きました。

◆第 3 回：「地域との関わり方～祇園新橋を事例に～」1 期生の森川剛宏さんより、地域に関わって支援する際の心得やノウハウなど、エリマネにとって基本となる重要なポイントを教えて頂きました。お話の後、みんなでそのエリアを視察しました。

エリマネが講師役に

「三条通エリアマネジメント検討会議」が発足
－エリアプラットフォーム構築に向けた社会実験－

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

キックオフミーティング

社会実験「三条通で遊んでみよし」にて、路上お絵描きが大人気

2020年度は「みちから考えるまちづくり」というテーマで、電線地中化無電柱化後の三条通における「みち」の在り方を検討し、その将来像を「三条通デザイン・アイデアブック 2021」にまとめました。今年度は、三条通の 7 町内をベースとした「京の三条まちづくり協議会」も主な一員として参画する「三条通エリアマネジメント検討会議」において、その実現に向けた組織「エリアプラットフォーム」の構築に向けた取組み、また、実際に三条通でどのようなことができるのかの可能性を探る社会実験の実施を柱に取組みました。

■研究会、勉強会の実施

年度当初は、先行して官民連携の社会実験を行っている広島や神戸、また、世界各地の取組み、検討会議アドバイザーの関わる地域などの事例から学ぶ機会を設けました。各回後半にはワークショップにて、三条通で展開するにはどのようなものが相応しいのかを地域の皆さんと考えました。これらには多くの京都景観エリアマネージャーがファシリテーターとしてその役割を担いました。参加者からは、三条通の持っている多様性を活かした文化の香る取組み、三条通で子どもたちをあまり見かけないので、子どもたちが楽しめる取組みなどを進めたいという意見が出てきました。

チームでのミーティング

■関係組織の広がりと地域の担い手

公共空間である「みち」を、民地とともに一体的にマネジメントしていこうとするこの取組みは、地域ベースの「京の三条まちづくり協議会」に加え、行政、企業、大学、専門家団体など、多様な主体の参画が求められます。今年度はそれら各組織との関係づくりにも取り組みました。また、最も必要とされる地域主体についても、地域に居住、就労する 30 ～ 40 代の若手 5 名を推進メンバーとして、社会実験を企画・運営していく体制が構築されました。このような関係づくり、地域が主体的に推進していける環境づくりを、京都景観エリアマネージャーとしてサポートしてきました。

■社会実験「三条通で遊んでみよし」

11 月 6 日、7 日には、三条通の 2 区間を車両通行止めにし、人が主役となり、公共空間を楽しみ、憩う社会実験「三条通で遊んでみよし」を開催しました。ここには地域の方、大学生、専門家ほか多様な方々（もちろんエリマネさんも）が協働スタッフとして関わりました。先の推進メンバーをリーダーに、5 つのチームに分かれ、大変な企画・準備作業を経て実現し、社会実験としての成功を収めました。

今回の社会実験の目的

富小路～柳馬場のエリアでは、子どもたちがアスファルトに自由にチョークでお絵描きし、ダンスを踊り、人工芝に座って絵本を読みました。地域の店舗、文化博物館を中心としたクラスターを形成する各文化施設もそれぞれの得意分野を活かしたワークショップや展示等を行いました。ここにはご高齢の方や外国人の方なども多く見られ、みんなが笑顔で取り巻く姿がありました。

西側の堺町～高倉通間では、コーヒーやお茶を提供し、今回に向けて制作したベンチ、人工芝やクッションに腰掛け、憩えるスペースを提供しました。文化博物館前のデッキスペースを含め、特に若い世代には、新しい日常の風景ともいえる公共空間使いこなしの姿が見られました。

(左上)会議で課題を検討、(左下)ファニチャーづくり、(右上)人工芝の上で読書、(右下)京炎との路上コラボ

実施地域マップ

また社会実験としては、一部の区間車両通行止めとするだけで、それ以外の区間でも圧倒的に車両数が減り、人がみちの中心を楽しく歩く姿が生まれるということも明らかになりました。

■振り返りと今後に向けて

12 月には社会実験におけるアンケート等を踏まえ、振り返りのワークショップを行いました。今回は成功したものの、皆背伸びをして頑張った面があるため、持続可能な方法を模索していく必要性などの意見が出されました。その後、福井や長浜の事例、全国のエリアマネジメント組織の実態調査等についての勉強会も開催し、次年度に向け、小規模・複数回の社会実験の実施を検討しているところです。今年度の一連の取組みは、多主体協働の経験を得ながら、「通り文化の復権と創造」の端緒となったと言えます。

振り返りワークショップの様子

各地の取組みを学ぶ

シンポジウムはオンラインで

近代建築 WEEK 2021

今年度の近代建築 WEEK は、11 月 14 日〜 28 日にかけ、「デジタル化時代を楽しむ」をテーマに開催しました。YouTube 配信シンポジウム、案内ツアー、子ども向けワークショップラリー、スマホアプリラリーなどを実施し、東京などわざわざ遠方から参加いただく事例も多くありました。

現在三条通には約 8 軒の近代洋風建築が存在しますが、これまでその横のつながりがありませんでした。そのため、上記市民向けイベントに加え、今年度は、各建築の所有者・管理者にお声がけし、お互いの連携を図る取組みを始めました。次年度以降、このネットワークが本格的に展開され、既存のまちづくりとのより良い関係づくりが期待されます。

(上)ラリーもデジタル活用、(下)子ども近代建築探検隊

鴨川運河会議と高松橋ひろばづくりの会
－冊子「鴨川運河 100 の視点」の改訂版を発行－

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

クローバーの種まき

鴨川運河会議では、講演会や交流会、案内ツアー、ひろばでの音楽やマルシェのイベントなど、定例化している取組みにより、「鴨川運河」という名称、またその存在が、地域内にも定着してきました。今年度は、鴨川運河会議立ち上げ時に作成した冊子「鴨川運河 100 の視点」も発行後 7 年を経て現状との齟齬が出てきたため、再編集し、改訂版を発行しました。

高松橋ひろばづくりの会の活動についても、地域内の子育て世代の女性たちを中心に行われています。12 月には子どもたち向けに、多くの方を巻き込んだイベントが行われました。左の写真は 50cm 四方程度の自分のエリアを決めて、親子でクローバーの種まき作業をしている様子です。

長尺マップの説明

地域・京都府・京都市の連携に期待膨らむ
－嵐山まちづくり協議会の活動をサポート－

文：高橋 裕美　*Takahashi Yumi*

定例会の様子

嵐山まちづくり協議会においてもコロナ禍による観光客減少の影響を受けましたが、嵐山が目指すべき将来像について地域と行政が共に学び議論する契機となりました。長辻通りの街灯を LED 電球に交換する機会に、オレンジと白の 2 色で実験を行い嵐山にふさわしい夜の景観づくりに繋がりました。

また、地域の方々と京都府、京都市の行政が一堂に会し、主に嵐山公園亀山地区における歴史的風光明媚な景観を阻害している樹木等の現状を学ぶことで目指すべき将来像を共有し、府、市の各関係部署が連携して取り組む景観まちづくりへの大きな第一歩を踏み出せました。

長辻通り街灯テスト

笹屋町一丁目景観まちづくり協議会の活動を支援
－景観まちづくりの計画書を作成－

文：小林 明音　*Kobayashi Akane*

町家の町内会式目

本協議会は、2020 年 2 月「京都市地域景観づくり協議会」の認定を受け、その後、約２年の年月をかけて「景観まちづくり計画書」が作られました。協議会のある笹屋町一丁目町は、上京区にある 21 世帯の小さな町内会で、地縁法人として町家（ちょういえ）を共同所有しており、地蔵盆などを通したコミュニティが今も受け継がれています。計画書は、「町内会式目」をベースに、全 7 回、のべ 33 名が参加した住民懇談会での意見をとりまとめて作成されました。歴史、文化、伝統のもとはぐくまれてきた地域のコミュニティを再確認し、未来へ活かしていく決意がうかがえます。

▼笹屋町一丁目景観まちづくり計画書については
WEB サイトでも紹介しています
https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000285/285611/sasayachou_plan.pdf

計画書認定式

次世代の担い手づくりと景観まちづくり
－未来に向けた地域交流のあり方の検討－

文：西谷 早恵　*Nishitani Sae*

景観は、その地域固有の共有価値や文化の現われであるという構造をもっています。地域の文化というものは地域住民の集団の中で連綿と培われてきたもので、地域住民の相互関係の下、共有価値や文化を守るためのルールが機能することから、現在の景観まちづくり活動への支援は、自治連合会や町内会などの地域組織を中心に行っています。しかし、その地域組織の担い手不足が現在では大きな課題となっており、将来的にはこの課題は更に大きくなると想定されます。どうすれば新しい担い手を見つけられるか、景観まちづくりの将来的な新しいあり方の検討に向けての調査を京都市景観政策課より受託して行いました。

本調査では、地域外から移住してきた人で地域の自治組織との関係を築くなど、地域の景観まちづくりに寄与する可能性のある人をピックアップしてヒアリングを行い、その中で得た事例をもとに景観政策課、京都市景観・まちづくりセンターと新しい景観まちづくりの方向性を見出すため、意見交換を行いました。

京都市建築協定連絡協議会の事務局運営
－協定締結地域を広げるための動画を作成－

文：黒田 素子　*Kuroda Motoko*

おむすびミーティング

建築協定を締結している地区のうち、市内 41 の委員会が加盟する京都市建築協定連絡協議会。京都景観フォーラムが事務局をお手伝いしはじめて 3 年が経ちました。

2021 年度は、京都市長との「おむすびミーティング」で行政との連携を確認したほか、建築協定の締結地域を広げるための制度紹介動画を作成しました。

地域ではコロナ禍で活動が縮小した一方、最近は個別の建築計画がぽつぽつと出てきているようです。この 3 年間の広報紙や HP の刷新の成果として、事務局にも気軽に相談の電話がかかるようになってきました。

制度紹介の動画を作成

地域活動の変化も予想されるこれからの時代に、各地域での運営をネットワークで支えることが、連絡協議会の課題となっています。

▼京都市建築協定連絡協議会については、WEB サイトでも紹介しています
https://kyotokeikan.org/kenchikukyoutei_HP/

歴史的建造物への指定支援業務を行いました
－古材文化の会との協働事業－

文：森川 宏剛　*Morikawa Hiroyoshi*

文化財マネージャーとの協働作業

2020 年度まで古材文化の会と協働で歴史的資産周辺の景観情報（プロファイル）の充実業務に取り組んでいましたが、2021 年度も協働し、歴史的風致形成建造物や景観重要建造物といった歴史的建造物への指定支援業務に取り組みました。

文献調査、所有者へのヒアリング、現地での建物調査・写真撮影などを行い、指定提案書にまとめる作業です。文化財マネージャー養成講座で学んだことを思い出しながら、また同じチームの文化財マネージャーさん達の手際の良さに感心しながらの取組みでしたが、普段は入れない社寺等の内部を見せていただく貴重な機会ともなり、楽しく取り組めました。

寺社内部の調査

NPO法人設立10周年を迎えました

コロナ感染症が収まらない2011年に、ＮＰＯ京都景観フォーラムは設立10周年を迎えました。「地域が主体となって景観まちづくりを進める社会の実現のために」、「景観まちづくりに関わる専門家を育て」、「そのネットワークで、地域をサポートしていく」という私たちのミッションは、設立当初から変わっていません。これから、ウィズコロナの世の中で、どのように景観まちづくりと向き合っていくか。新たなフレーズに挑みます。

2011年NPO設立記念として発行した冊子と
シンポジウムの案内チラシ

京都市景観整備機構
NPO法人京都景観フォーラム
理事長：内藤 郁子

NPO法人 京都景観フォーラム WEBサイト

https://kyotokeikan.org

京都景観フォーラム　検索　※スマホにも対応しています

景観・まちづくりに関する活動情報をお届けします。

- 最新の情報をお届けします！まちづくりトピックス
- 京都景観フォーラムの活動紹介
- 京都景観エリアマネジメント講座カリキュラム・受講者の声を掲載
- イベント・シンポジウムの開催情報もこちらから

編集 / 京都景観フォーラム 広報委員会　デザイン・印刷 / 有限会社エイブル
発行 2022年5月21日

KYOTO KEIKAN FORUM
NPO法人京都景観フォーラム
https://kyotokeikan.org/　〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21番地 事務機のウエダビル206
TEL：075-354-5224　FAX：075-491-9663　MAIL：kkf@kyotokeikan.org